

教育スタッフの

「仕事」日誌



Season 20

J B C Cグループ
J B エキスパート
人事・総務 人材組織開発部
人材開発グループ

宮崎海都

9月

学ぶだけで、終わらせない—Jバリュートレーニング

自ら「学びたい人」を育てる

前は階層別研修についてお伝えしましたが、今回はJバリュートレーニングについてお話しします。

J B C Cグループではこれまで、年次や役職に応じてノミネートされた社員が受ける研修が中心でした。一定の体系はあるものの、自ら学びたいと思った社員が自由に参加できる場は、十分には整っていませんでした。

そこから生まれた問いが「自発的に学びたい社員のための研修を、どう設計するか」でした。ノミネートされていない社員にも、価値創造型人材に近づく機会を届けたい。その考えのもと、手をあげた社員が参加できるカフェテリア型研修として、Jバリュートレーニングはスタートしました。

なぜ「考え抜く力」からなのか

J B C Cグループでは、社員がもつべき価値観（行動規範）を「J B C Cバリュー」として定義し

ています。

「プロフェッショナルとしての成長」「チャレンジ」「とことん考え抜く」



「人間力」「チーム・仲間への貢献」という5つの「J B C Cバリュー」のなかで、Jバリュートレーニングの最初のテーマに選ばれたのが「考え抜く力」でした。「考え抜く力こそ、すべてのバリューの根源である」——。この言葉が、設計の核心を表しています。

プロフェッショナルとして成長するためにも、チャレンジを正しく実行するためにも、チームへ貢献するためにも、まず「考え抜く力」が土台になる。だから最初に手をつけるべきは「考え抜く力」だという結論に至りました。

具体的には、「ロジカルシンキング」と「クリティカルシンキング」という2つの思考フレームワークを軸に研修を設計しました。会社として継続的な成長を目指すなかで、過去のやり方を疑い、本当にその方法で正しいのかを問い直す癖を社員に身につけてほしい——。そうした経営の課題意識とも連動した設計です。

いきなりクリティカルシンキングから学ぶのは難しいという声もあったため、その前提として必要なロジカルシンキングもあわせて提供することになりました。

初年度の手応え

2025年10月に第1回を実施し、年度内に計184

人が参加しました。受講後アンケートの満足度指標 (NSI) は、年度内に実施した全 J バリュートレーニングの平均で96.5。この数字が、研修の充実度を物語っています。

参加者からは、「実務につながる」「座学だけでなくアウトプットの機会があった」という声が多く寄せられました。また、「上司や後輩にも受けてほしい」という他者への推奨コメントも多く、口コミで広がる手応えも感じられる結果となりました。

一方で、一切の強制力がないなかで、2,000人規模の会社における184人の参加が多いのか少ないのか、意見が分かれるところではあると思います。ただ、少なくともこの184人は、自ら学びたいと手をあげた人たちです。

こうした人が少しでも多くいることが、会社を「学習する組織 (強い組織)」へと進化させる——。そう確信しているからこそ、自発的に学びたいと思う社員の裾野をどう広げていくかが、今後の課題です。

今年度の展開—拡大と深化

2026年度も引き続き、ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを軸に展開しながら、新たに、プロジェクトマネジメントをテーマとした研修の追加を予定しています。システムエンジニアが多い J B C C グループにおいて、チームで仕事を動かす力を体系的に学べる場を提供したいというねらいです。「考え抜く力」を個人の中で完結させるのではなく、チームや仲間へ波及させていく。そのための次の一手です。

また、受講して終わりにしないためのフォロー

アップを仕組み化することにもチャレンジしています。

研修はよく温泉にたとえられます。「研修中や直後は熱いが、少し経つと湯冷めする」……。こう

した状態をなくすことこそ

が、研修の目的である行動変容につながる重要な要素だととらえています。

そのためにも、受講後に振り返りを行い、学びを実務での行動につなげてもらう仕組みづくりを進めています。



学びを、行動変容へ

この研修を通じて、私たちが大切にしたいことは2つあります。

1つは、「自ら学び、実践する癖」を全社員に広めること。研修で得た知識が、日常の業務の中で実際に使われてはじめて意味をもつと思っています。

もう1つは、J バリュートレーニングで学ぶ内容が、J B C C の従業員としてだけでなく、一人ひとりの会社の垣根を超えたビジネスパーソンとしてのキャリア形成においても活きるものであってほしいということです。

スキルを教えるだけの場ではなく、行動を変え、キャリアにまで影響を与える学びの場を目指す——。それがこの研修の本質だと、今は確信しています。

